



16 火おこし

青森県立種差少年自然の家

○活動の概要○

「マイギリ式」の道具を使い、仲間で協力して火をおこします。

1 ねらい

昔ながらの方法で火種を作り、昔の人の知恵や火の大切さを体験させます。
(小学校 社会科)

2 場所・人数・期間・時間

- ① 場所・人数 プレーホール、大ホールは60人以内（1グループ2～6人程度）
玄関ホール（20人：他団体の出入りが少ない場合）
- ② 期間 通年
- ③ 時間 2～3時間

3 職員の支援について

やり方説明や安全確保のために、職員が活動支援に入ることができます。

4 準備物

区分	準備物	備考
団体	特になし	
個人	・軍手 ・タオル	
自然の家	・火おこし用具一式	・10セット
斡旋可能	・火おこしセット（麻ひも8本、心棒1本）	・1セット225円（2～6人）

5 引率者の役割分担

係名	役割
代表責任者	・全体の掌握、指揮、連絡にあたる。
救護係	・緊急時の救護、搬送にあたる。

6 活動の流れ

- ① 活動説明（代表責任者）
- ② ヒキリ板の加工
- ③ 麻ひもをほどく
- ④ 火種をつくる
- ⑤ 火種を麻ひもにつつまみ、炎をつける
- ⑥ まとめ・片づけ

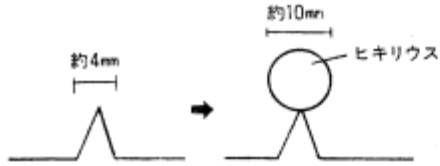
7 その他

- ・刃物や火を扱うので、安全確保に気を配ってください。
- ・ほとんどの場合、火種をつくるまでに至りませんが、火がつかないことは失敗ではありません。このことを通じて火の大切さや先人の知恵や苦勞について考えさせる機会としてください。
- ・事前に実習することをおすすめします。

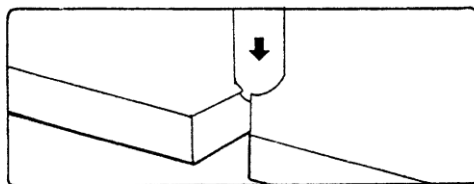
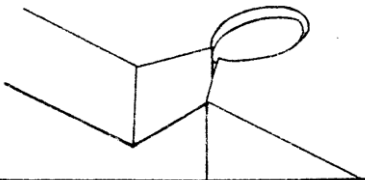
《資料》

①ヒキリ板の加工（：ヒキリ板）

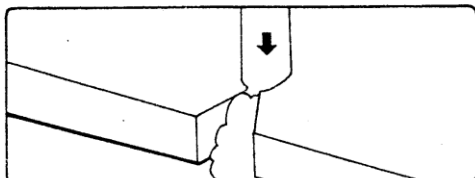
火種をつくる時、ヒキリウスから黒い粉があふれ出るように、ヒキリ板にV字の切りこみをほんのすこし入れ、深さ2～3mmのヒキリウスを彫刻刀などで作る。



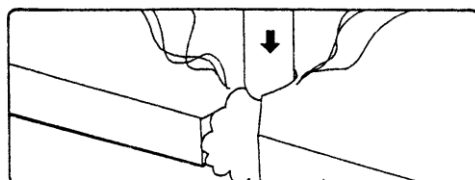
V字の先端が大きくあけると、ヒキリぼうを回転させた時、ヒキリウスからヒキリぼうがはずれやすくなり、小さすぎると回転させた時出る黒い粉が、出口をうしなうので注意しよう。



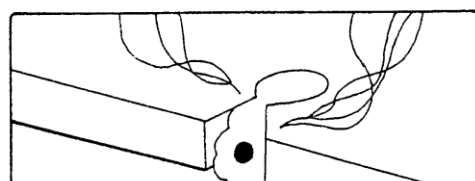
1) ゆっくりまわしてゆく。



2) だんだん力を入れてゆくと、茶色の粉が出て、こげるニオイがしてくる。



3) 回転スピードをさらにあげると、黒い粉がわきでるようになってくる。

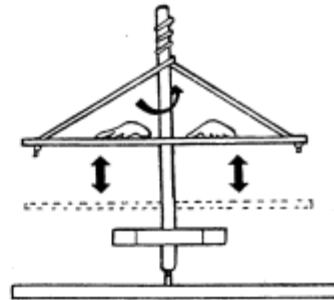


4) 黒い粉の中に火種ができる。

※早ければ30秒～1分くらいで火種ができる。

②火種をつくる

横木ハンドルを両手で上下に動かすと、ヒモがヒキリぼうに巻きつき回転する。しかし、だんだんとくわえる力と、回転する早さが増してゆかないと、ヒキリウスからヒキリぼうがはずれたり回転がとまる。



＜回転がとまってしまったら＞

ヒキリウスからヒキリぼうがはずれると、回転にムラができ、とまってしまう。すると発火材が冷えて固くなり、発火材がヒキリウスにしめつけられ、再度回転できなくなる。発火材のこげた所をけずり、新しいヒキリウスでやりなおそう。

＜火種ができない時＞

- 3分以上回転させても火種ができないときは、他のヒキリウスでやってみる。
- ① 重し板はしっかり、まっすぐに接着固定されているか。
- ② ヒキリぼうの角穴に、まっすぐ発火材が入っているか。
- ③ ヒキリ板の加工に問題がある。
- 回転させる時に、だんだんとくわえる力と、回転する早さが増していつているか。

③火種から炎にする

火種が出たら、まず火種を大きくしよう。あらかじめ麻ひもをほぐしておく。(短かめにカットすると、ほぐしやすい。)

ほぐしたひとつかみの麻ひもに、大きくした火種をくるみ、息を強くかける。(麻ひもは、たくさんほぐしておこう。)